

熊本市歯科医師会会誌

第 46 号



FDI 参観記
学校歯科保健研修会
菊池高原スコーレ、秋の自然の中で

1983. 12

表紙の写真 「せんだん轟の滝」

市広報委員 寺脇 博

目 次

山室紀雄先生熊本市歯科医師会専務兼任副会長に任命さる	2
F. D. I 参観記	3
開会式	3
シンポジウム	4
ジャパンプログラムⅡ	5
F D I 関連団体シンポジウム	6
テーブルクリニック	7
デンタルショウ	8
絵画展	9
テクノポリスフェアーに於る健康展	11
今後の歯科医院経営の進め方	13
菊池高原スコーレ、秋の自然の中で	15
第1回学校歯科保健研修会	17
委員会紹介(学術委員会)	22
第5回日本口腔衛生学会	25
本日休診、スキューバ・ダイビング	26
昭和58年度歯磨き巡回指導	28
勉強部屋	29
新樹会大学対抗ソフトボール大会	31
会員配置図(東部4)	32
御案内	33
会務報告	34
編集後記	

山室紀雄先生、熊本市歯科医師会専務兼任 副会長に任命さる



去る8月10日社団法人、熊本市歯科医師会副会長、園田守生先生が急逝され、早くも4ヶ月が過ぎましたが、今だに信じられなく、まことに寂しい気持が致します。先日、川崎会長より、副会長として協力してくれとの要請があり、色々と考えましたが、幸にして私もめぐまれた執行部と、御理解ある先生方に囲まれておりますので、未熟ながら御引き受け致しました。しかしながら、先生方御存知

のように、現在、多面にわたって我々をとりまく環境はまことにきびしいものがあります。このような時期の副会長としての責任の重さを痛感致しております。

しかし、御引受けした以上、会員各先生方の意見を拝聴して、微力ながら、熊本市歯科医師会発展のために出来るかぎりの努力を致します。どうか先生方の御指導と御協力をよろしくお願い致します。

F D I 総会参観記

市学術委員会

開 会 式

伊 東 隆 利

万来の拍手に迎えられ、山崎数雄日本歯科医師会会長の先導により、皇太子殿下、妃殿下がにこやかに微笑をうかべられながら、中央の玉座に向かわれ、先に着席をすまされていた中曾根康弘内閣総理大臣も笑顔で拍手をされている。マサに今第71回世界歯学会大会（F D I）が始まろうとしています。

ヒナ壇には右に日本歯科医師会、日本歯科医学会のお歴々、左にはF D Iの役員がズラリと並び、会場メインフロアーには、世界71ヶ国から集まった、それぞれ服装も違えば、肌の色も異なる、それでいて歯科医と言う点で共通項のある人達が御夫人同伴、あるいは御家族連れでという具合に賑やかな。



2階のフロアーも同じように国際色豊かで外人特有の大きな手振り身振りで話している人達が一杯。

3階は、それこそ全国津々浦々から、この歯科界始まって以来の祭典を見ようと馳せつけた我国の歯科医、あるいは御家族、合わせてその数1万にも達するかと思われました。

やがて山崎会長の力強い開会の挨拶、特にアジアで初めてのF D Iを東京に誘致した意義などに触れられ、白数会長は最近体調をくずしておられると聞いていましたが、力を振りしぼった挨拶、引きつづきF D Iアグリード会長の感謝のこもったご挨拶と続き、いよいよ皇太子殿下のご挨拶。殿下は貝原益軒の養生訓の中の歯の病気の予防法を紹介され、今のように歯科医学大系のなかった時代でも心ある人は歯の病気の予防に心がけ生涯自分の歯で食事が出来ていた事実をとりあげられました。このF D Iのスローガンが「長寿の為の歯学」であることを御存じの上でのご挨拶とは言え、素晴らしいスピーチでした。

続いて中曾根総理大臣の挨拶、特に40才以上の歯周疾患についての国家的な対策の遅れについて触れられ専門的なことに言及されたことには驚きました。余談になりますが都内のさる高名な歯科の先生に伺ったところ、総

理は上下顎共臼歯部はブリッジ上顎前歯部はポーセレンで補綴され、処置していない歯は $\overline{2+2}$ とのことですが、あの忙しいタイムスケジュールの中で、定期的に検査や除石に来られ、年令を考えた時、立派な口腔内だとお聞きしました。患者さんとしても優等生だそうです。

その後、FDI専務理事のアールバーグ先生より参加国の点呼があり、きらびやかな振袖姿のお嬢さんに迎えられ71ヶ国の参加が確認されました。このように登録国数と参加国

数が一致するのは珍しいことだそうです、アールバーグ先生は最後に日本の組織委員会の素晴らしいさを褒め上げられました。宇治先生、堤先生のご苦勞が偲ばれました。午後2時から始まったアトラクションから2時間を越える祝典はアッという間に過ぎたといってよく、閉会後武道館の周りはその興奮さめやらず、三々五々にグループが出来、しばし国際色豊かな談笑の場に早変わりし、東京の日暮れは早く、夕やみ近い頃、さすがの大観衆もいつの間にか去っていきました。

シンポジウム

堀川 秀一

今回のFDI総会は、日本歯科医学会総会と相重なっていることもあり、1人で見たり聞いたりするには時間の足りなさ、久し振りの講演講義の連続、日本語、英語、ドイツ語など、目も回る耳も回るといった状態で、体力の限界も思い知らされ、数ある企画の何分の1も参加できなかったことが、悔やまれますが、その中から、私の見聞した範囲で報告します。

メインテーマ I 「歯を長持ちさせることの意義」

最初の演者はフィンランドの若くて、美しい教授のAnja Ainamo先生で、「歯は生涯持つはずのものである」というテーマで、咬耗の生理学から、ヒトの歯は生涯、長持ちするように意図されて作られていると報告さ

れ、長い人類の歴史の中で考える時、無歯顎という状態は、最近になって現われて来た文明病、もっと厳しくいえば医原性疾患であると位置づけ、フィンランドにおいても、過去、社会の影響、例えば砂糖の消費量、値段、歯科医師の数、風習などにより、フィンランド国民の口腔状態が著るしく変化を受けたと説き、今や、進歩した歯科医学を武器にすれば、歯を生涯残すことも夢でなく、フィンランドにおいては予防的なプロジェクトにより効果が上っているとの報告で、次回のFDIの開催国らしく大胆な発想とその実績を示されました。

次のスピーカーは、スウェーデンのGöteborg大学の歯学部部長のCarlsson教授で「補綴物の咀嚼能率」というテーマの発表でした。教授は総義歯症例に骨移植性インプ

ラントを適用し、咀嚼能率のはるかに優れていることを示し、予後の点でも10~15年経過していることを報告しました。質問の時間になると、各国の人達から手が上がり、その内容はインプラントに関するものが多く、教授も「今日はインプラントの学会ではないのでこの位にしてくれ」と言い出す場面もあり、

世界的な規模でインプラントに対する興味が盛り上っていると感じました。

講演は英語で行なわれていますが、こちらはイヤホンから流れてくる同時通訳の日本語を聞きながら、「今、自分は国際会議に参加しているのだな!」という実感がこみ上げてきました。

ジャパンプログラムⅢ

テーマⅡ、歯科診療における

B型肝炎感染防止の実際

大 嶋 健 一

B型肝炎のテーマは世界的規模で問題になっているらしく、今回のEDIでも、ジャパンプログラムの中で上記演題、FDI 歯科用品委員会のオープンセッションでも「肝炎、今わかっていること、できること」のテーマで講演が組まれていましたが、ジャパンプログラムの方はスピーカーが日本人ということもあり、言葉の問題もありジャパンプログラムを聞くことにしました。後日聞いた話では、肝炎に対する研究は今、日本が一番すすんでいるらしく、FDIの企画に敬意を表して同時通訳なしで済ませたとの裏話を聞きました。

最初は森本基教授が、現在の医療体系の中でB型肝炎に対する予防法としてはワクチンによる方法が最も優れていること、また最近の研究では80%の抗体産生を誇るワクチンも開発され、今やこのワクチンを「どう歯科界の中に定着させるかが問題だ」と大胆な提案があり、もし現時点において医療従事者が、肝炎患者の血液に汚染された時は、人免疫γ

ーグロブリンが効果的であり、全国的に大学病院、日赤病院などでは常備してある薬品で、特に48時間内に対応すれば肝炎発症はかなりの高率で予防できるとのことでした。

つづいてのスピーカーは古橋正吉教授でHB型肝炎の基礎と臨床についてお話があり、歯科医師を含め医療従事者は年2回は検査を受けるよう勧告されました。

久野吉雄教授は更に細かく予防法について説かれ、器械の消毒は言うまでもなく印象物の薬物消毒、またそれによって惹起される変形の程度、手洗いの上のちょっとした工夫など、御本人もかってB型肝炎に倒れられたご経験もあり真に迫るものがありました。

最後に座長の高添一郎教授が「人をみたら肝炎と思え!そういう時代です。今日、この講演会に集まれた先生は有意義なご勉強をされおそらく最後まで生き残れる歯科医でありましょう」と爆笑の中にシンポジウムは終わりました。

FDI関連団体シンポジウム 国際口腔外科学会シンポジウム

「歯科診療中における緊急事故対策」

伊 東 隆 利

顎関節症の研究で知られるLaskin 教授のお話を聞きたいと思い会場の「梅の間」にはいると、驚くなかれ開始の20分前だというのに満席近い状態で、会場が狭いこともあり、すでに同時通訳のイヤホーンはない。ガックリ!! というのは、このFDIに上京してきたのも口腔外科をやる者の1人として、この国際シンポジウムを聞きたい一念で来ているのに、同時通訳のイヤホーンがないことはもう致命的。私の語学力ではどうしようもない。お先真暗 と思ったことでした。

しかし、よくしたもので、講演が2席、3席と進む内に前の方の席が空くこともあり、少しずつ前の方に移動し、Laskin 教授の講演の始まる頃には、一等席に座われ、イヤホーンも手に入り一安心でした。

テーマは一般臨床医向けに「緊急事故対策」と、古くて新しい問題でした。

まず第一席は、Goss 先生が全身疾患を有する患者の取扱いについて講演があり、世界的に高令化社会を迎えるにあたり、患者の医学的問題が歯科治療につながってくる危険性が現実的なものになるという認識が世界の先進国で持ちあがり、このテーマが取り上げられているのだと思いました。歯科医の卒後研修、あるいは歯学部教育の中に、全身把握の為のカリキュラムの充実が望まれると思

いました。

第2席は、国際口腔外科学会副会長、Hardman 先生の「外科的緊急事故の対策」ということで、出血、感染、器具操作の事故の3つにしばって話があり、英国紳士らしく、長身で堂々とした話しぶりでした。

日本からは、内田安信教授が、いわゆるデンタルショックについて、久保田康耶教授が全身麻酔下での偶発症について、共に膨大な資料を整理した上での発表でした。内容については今までいろんな学会、雑誌等で発表されたものの総括といった感じでした。

いよいよ最後はLaskin 教授です。イリノイ大学歯学部口腔外科の教授を23年間勤めておられ、現在国際口腔外科学会の会長という口腔外科世界の第一人者です。

「局所麻酔に伴う偶発症の診断と治療」がそのテーマで、解りやすいスライド構成で、原因が局所麻酔薬そのものか、またそれに含まれる血管収縮薬によるものか、また全身性の反応か局所みの反応か、症状としては痛み、血腫、筋マヒ、開口障害、潰瘍形成、感染などに分類し、その予防としては、当り前のことながら解剖的知識に基づいて刺入し、ゆっくり注入、体温並みの温度にカートリッジを温めると、またボスミンの濃度は10万分の1以下にするべきだと強調されました。

今私共の使っている局所麻酔剤の中には、
8万分の1のものも多くあり、どうしたもの
かと思ひながら、念願を果たした充実感に浸り

ニューオータニを出ると、東京の夕やみは早
く、赤坂の灯が呼んでいるような気持ちでし
た。

テーブルクリニック

藤波 剛

FDI年次世界歯学大会の中から

11月16日(水)テーブル・デモンストレーションと自由 研究発表を聞いて

「簡単に迅速かつ正確な総義 歯機能印象法」

松浦孝治

高令化社会の到来で、総義歯患者の占める
ウェイトも増大してくると思われるが、総義
歯の中で最も重要で煩雑なのが印象採得であ
る。そこでキサントブレン・ファンクション
印象材を使用すると、機能印象のスビード化、
簡単化、正確さの点で、我々開業医にとつて
も又、患者にとつても非常に大きなメリット
があると思われる。

1. 筋圧形成

基礎床、旧義歯の床縁にパテ状の一次印象
材を盛り、通常通り（物を飲みこむ、口をす
ぼめる、咬み合わせる等）患者に口の運動を
させることによって、術者の手によらず、患
者自身に採得させることができる。

2. 咬合圧印象

二次印象材を粘って、筋圧形成が終った内
面に盛り、患者自身の咬合圧によって最終印

象をとる。

この方法では、今まで使っていた旧義歯を
使用しても行なえるし、リベースの際にも利
用できるし、非常に有利な方法である。

接着ブリッジの臨床」

山見利明・山下 敦

現在、非常に興味をもたれ、話題になって
いる Adhesion Bridge（接着ブリッジ）
Adhesion Sprint（動揺歯固定法）につ
いて、臨床的ステップを追いながら、解説が
行なわれた。

何よりもまず、成功させるためには、

- ① ケースの選択
- ② 維持装置のデザイン
- ③ 接着剤ならびに被着体である歯面の処
理法

- ④ 金属の種類と処理法

等を的確にしなければならない。

先生方も、接着性レジン・セメントを利用さ

れる場合は、このことを十分に守って、臨床に使用して下さい。

接着レジンについては、その他に2題のデモンストレーションがあった。

自由研究発表では、

「レーザー照射法(アルゴン・イオン・レーザー)によるう蝕

の新しい診断法」

「CO₂レーザー照射による歯髄組織の変化に関する実験的研究」

というような、新しい研究分野の発表も行なわれた。

デンタルショウ

堀川 秀一

晴海の東京国際貿易センターに於て、去る11月13日～16日まで開催されました。アジアに於ては初めてのFDIでもあり、出展された商社は、海外12ヶ国60社余り、国内160社の合計220社にもものぼりました。各社ともに最高のものを展示されて競われ盛んでした。会場は西館及び新館の合計3フロアの広大なスペースをとり18cityに区分され、220社が整然と展示されていました。

しかし、最初の一日は4cityを見ただけで疲れ果て、翌日は興味あるcityだけをみ

ることにして、やっとの思いで一巡して参りました。その中で特に印象に残っているものは、コンピュータ関係の商品と予防歯科関係のコーナーが特別広く感じられました。又、情報部門の書籍コーナーも目に付きました。でも、例年のデンタルショーと違ったのは、ヨーロッパの名も知らない優れた商品を沢山みることが出来ました。しかも国際的学会らしく、多数の外国のデンティストも加わり、国際色豊かな点が強く印象的でした。

全日本歯科医師美術連盟絵画展

岩村 泰行

日本の歯科界がその総力を結集して行なわれた第71回F D I 年次世界歯学大会。ホテルニュー大谷をメイン会場として各フロアに於てそれぞれの分科会が行われている。これに併行して銀座2丁目東京セントラル美術館にて、全日本歯科医師美術連盟主催、日本歯科医師会、文化庁、NHK厚生文化事業団、朝日新聞社、歯科ベンクラブ後援のもとに華々しく開催され、我が熊本県歯科医師会もこれにこたえて、宇治寿康会長をはじめ12名の諸先生。日頃診療の合間に腕を振られた傑作を参加出品、地元東京、神奈川について多数の出品であった。中原実先生、山崎数男先生、総山孝雄先生等をはじめとして総数222、いずれも50号の大作ばかり。F D I 会長「ソーステン、アグリード」先生のメッセージの一部にも歯科医師の日常は、体力と頭脳の労働であるとともにストレスの重なる労働でもあります。この緊張を解くのに創造的な芸術活動

をすることは職業生活を健全に送るためにも、大変重要なことであります。私はここに、わが同僚達が芸術的才能をお持ちになっていることを祝し、同僚達の作品が海外から訪れる私達を楽しませ、自らが、創造の喜びを得られることを希望します。次にF D I 副会長総山孝雄先生。歯科医療は造形の芸術である。国際歯科連盟で定められたデンティストリーという言葉の定義には、サイエンス・アンド・アートということばが使われている。歯科医療の基礎はもちろんサイエンスとしての医学であるが、それを現実の医療に具現する為には、歯科独特の高度のテクノロジーを必要とする、



アートという言葉の中にはそのテクノロジーという意味も含まれているが決してそれだけではない。歯は人の顔貌の中の清潔な健康美を表わす為の主要な要素である。あまりにも言い古された言葉ではあるが、明眸皓歯が美男美女である為の二大要件であることは、古

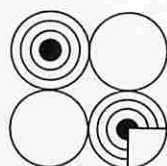
今を通じて変わりが無い。その歯を修復するのであるから、その造形に芸術的なセンスを



必要とするのは当然であろうこのことは、良

き歯科医師となる為の重要な要件の一つである。(メッセージの一部)

私達が日常の診療に於て保存学的、外科的補綴学的、又は矯正学的と随所にこれら審美創造的、センスを要することは当然のことであろう。時にはその患者の性格さえ変えることがあるのは皆様も体験されたことと思います。前述のお二人の先生のメッセージの一部を御紹介申し上げ学術委員の立場から一言申し上げてこの稿を結びたいと存じます。



テクノポリスフェアにおける健康展

口腔衛生担当理事 田島 宗穂

去る10月30日、日曜から11月3日祝日まで『くまもとテクノポリスフェア83』が催され私達熊本市歯科医師会も水前寺体育館内の第4エリア・メデイカルオートメーションに於て最新歯科用器材の展示や健康診断等を行い大いに参加者の動員をはかりました。



そもそも此のテクノポリス構想は産業界学界、行政、地域社会が一体となって九州の中央に位置する熊本県の豊かな自然環境恵まれた地理的条件、安定した経済基盤のもとで、我が国経済をささえる先端技術産業を核とし

て自然と調和した人間中心のうるおいのある未来都市構想で、実現に向けて大きな可能性を求めて熊本県あるいは熊本市が強力に推進して行く大一步であります。



これに昨年発足した熊本市保健医療専門団体連合会が協力して生活と情報化展の中に健康ゾーンをもうけ、地域医療の向上をはかり合わせて各団体の活動をPRし、熊本市民の健康増進に役立つよう実施されました。



私達歯科コーナーでは毎日50名平均の検診者があり最終日は150名の受診者がありました

た。又、衛生士会の活動により歯石除去のデモや、削掃指導も盛況でした。

此のフェアを終えてみて、熊本県が第一次指定都市としての実績を重ねんがため、今後の細川知事以下各団体の強力なバックアップが必要と考えられます。

あらためて熊本の豊かな未来と理想的な都市づくりを祈念するものであります。



「今後の歯科医院経営の進め方」

講師

デンタルビジネス・マネージメント

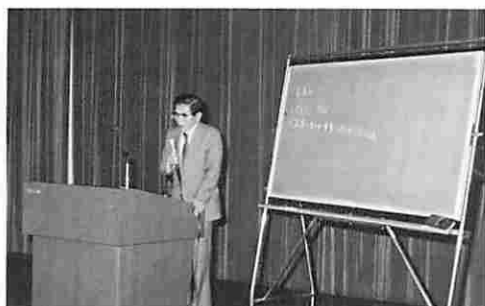
チーフコンサルタント 辻中 保夫先生

去る10月25日（火）、午後7時より、熊本県歯科医師会館に於て、熊本市医療管理講演会が多数の先生方の出席のもと行われた。

今回は、特に辻中先生からのアドバイスもあり、興味並びに専従者の万同伴でという企画であったので、全体の3分の1が同伴者出席でした。

1. 「今後の歯科医院経営の進め方」
2. 「青色申告のメリット・デメリット」
3. 「効果的な財形のあり方」

という3つのテーマのもと、講演が進められた。



我々を取り囲む歯科界の現況は、非常に厳しいものとなっている。このような時代に対処するためには、個々の歯科医院が自らの手で、経営健全化の体制を確立していくことが、必要である。

これからの歯科医院経営者は、数字に強くなることが必須条件である。数字に弱くては、先を読みとることはできないし、税数を含め



た諸対策の立てようもない。

わが国の歯科医療技術が、欧米諸国に優るとも劣らない水準にあるのは、臨床家として弛まぬ努力の結果である。経理・税数対策も同様に日常の経理処理を自らの手で習慣づけることにより、数字が読め、税務対策も自ら明らかとなる。

このことが、これからの歯科医院経営の進め方として、最も重要なことであろう。

青色申告の第一のメリットは、専従者給与の必要経費算入である。



専従者給与が節税となる場合、又不利になる場合、それに専従者給与の自己否認について、詳しく説明があった。

効果的な財形については、土地・国債とか、マンション購入という方法もあるが、一年ものの割引債券が一番望ましいとのことでした。

又、これからは、財形も必要なことであるが、合わせて、贈与ということも、真剣に考

えていかねばならない。

3時間に渡る長時間の講演でしたが、ユーモアをまじえた話し方で、楽しく聞くことができました。

最後に、この厳しい歯科界の現状こそ、正常な姿であり、いままでが異常であったという先生の言葉が非常に印象的でした。

医療管理委員 千場 正昭

新睦旅行

菊池高原スコーレ

秋の自然の中で !!

去る11月23日（火）、熊本市歯科医師会恒例の親睦旅行が、会員・家族・従業員を含む70余名の参加者を集めて行なわれました。今回は、菊池高原スコーレの涼風の中でのバーベキューパーティをはじめとするアクティブなリゾートレクリエーション、紅葉狩り、並びに、菊池郡合志町への栗狩りをキャッチフレーズとしましたが、各種行事混み合う中にも、予想外に多数の参加者がありました。

当日は、午前9時30分に熊本市市民会館前に集合し、バス2台に分乗し一路目的地の“菊池高原スコーレ”をめざして出発しました。澄みきった秋晴れの下、快適なドライブを楽しみながら、車中は陽気もよく若いガイド嬢の案内に耳を傾けながら非常にリラックスした雰囲気でした。



雲が微笑えむ紅葉の山路を登って菊池高原

スコーレに着きましたが、そこには子供から大人まで充分楽しめるような、展望リフト、スーパーライダー、アスレチック、サイクリング、乗馬、アーチェリー、パターゴルフ、電気自動車等の盛沢山のプレイ施設が設けられておりました。そこでの1～2時間は、参加者にとってはまたたく間に過ぎてしまい、



まだ名残り惜しそうな子供さん達も多数いたようでしたが12時30分になると、野鳥さえずる林の中のバーベキューコーナーで昼食となりました。参加者はそれぞれに5～6人のグループに分かれ、血もしたたらんばかりの肉、野菜を目の前で焼きながら、ボリューム満点の料理に舌鼓を打ち食欲の秋を充分満喫しました。

何やら満ち足りた気分で、重いお腹をかかえながら、午後2時頃には、菊池高原スコー

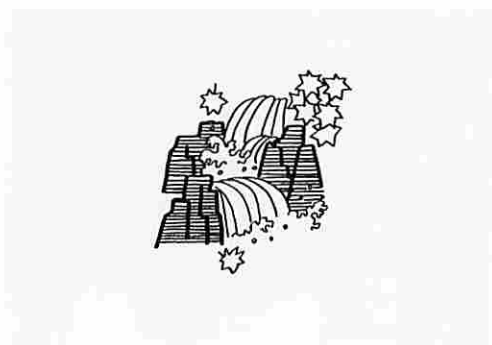
レを後にして、次の目的地の菊池郡合志町永
観光栗園へと向かいました。栗園では、たわ



わに実った秋の味覚の栗を、トゲに気をつけ
ながら拾い、栗でいっぱいのかかえて帰
りのバスに乗り込み、明日からの診療に思い
を馳せて一路熊本へと向かい、午後4時全員
無事に交通センターに到着し解散しました。

最後に、参加された会員の先生方には大変
お疲れ様でした。又来年も更に楽しい親睦旅
行になるように。振るって御参加御協力お願
い致します。

(厚生委員会)



第1回学校歯科保健研修会

学校歯科委員会 片山隆昭

10月15日(土) 7:00PMより県歯師
会館にて標記の研修会が市学校歯科医、養護
教諭及び歯科衛生士、助手を対象に開かれま
した。

会場は土曜日の遅い時間にも拘らず約140
名の熱心な出席者で埋めつくされました。

今回は東京医科歯科大学保存学教室、歯周
治療学講座の木下四郎教授をお招きして、「学
校歯科における最新の効果的なブラークコン
トロール」と題して御講演をしていただきま
した。



講演終了後、鈴木担当理事より、学校歯科
検診表について、検診表記載の書式及び内容
の簡略化と統一のための提案がなされました。

木下先生は日本歯周病学会の理事長として、
学界の優秀なる頭脳を結集し最新の「歯周疾
患治療指針」を編纂し歯科医学の向上に精力
的に取り組んでこられました。ブラークコン



トロールをはじめとして歯周疾患を体系化さ
れた第1人者でした。以上の要旨報告致しま
す。

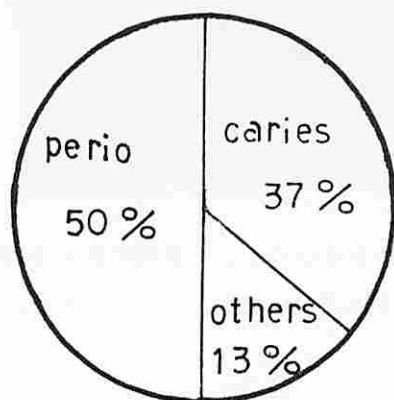


1. 最新の効果的なプラークコントロール

我国では平均的に30才代で4分の1の歯を失い、40才代では3分の1しか歯は残らず、50才代では5分の1の人が無歯顎となっている。生体は老化現象を示すが歯には老化現象はない。歯の磨き方次第で歯は生涯使えるものである。

ペルトンによると図1の如く歯を失う原因として歯槽膿漏は50%を占める。歯科を受診する患者で、子供の半数以上、成人の大部分は歯周疾患に罹患している。(図1)

図1

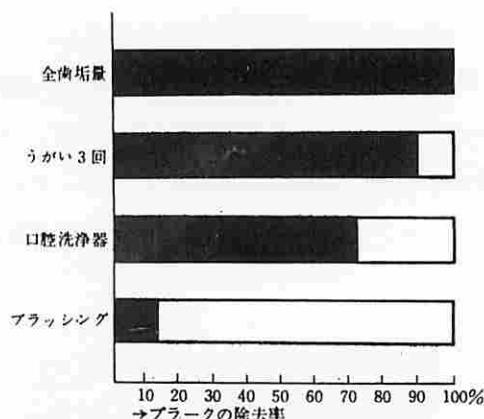


歯肉は角化しており、手足の裏に次いで固いもので、固い食物でも傷つかないようにできている。歯周疾患は細菌が原因である。正常の細菌は好気性であるが、歯を磨かず1週間もすると嫌気性細菌が増殖する。これが歯周疾患を引き起こす原因であるので、これが住めない環境作りが大切である。う歯と歯周疾患の原因となる細菌の種類はそれぞれ異なる。しかしう歯にならないための磨き方とか、歯周疾患にならないための磨き方とか、それぞ

れ異った磨き方がある訳ではない。歯周疾患に有効な磨き方はう歯にも有効である。

ところで、歯の表面に付着したプラークは、うがいだけでは取れないものである。図2の如く歯牙表面の全プラークを100%とすると、うがい3回しても10%の除去率で、歯ブラシを使用しても90%程度しかとれない。残りは隣接面などであるが、これはインターデンタルブラシやフロスシルクを用いてとらねばならない。

図2



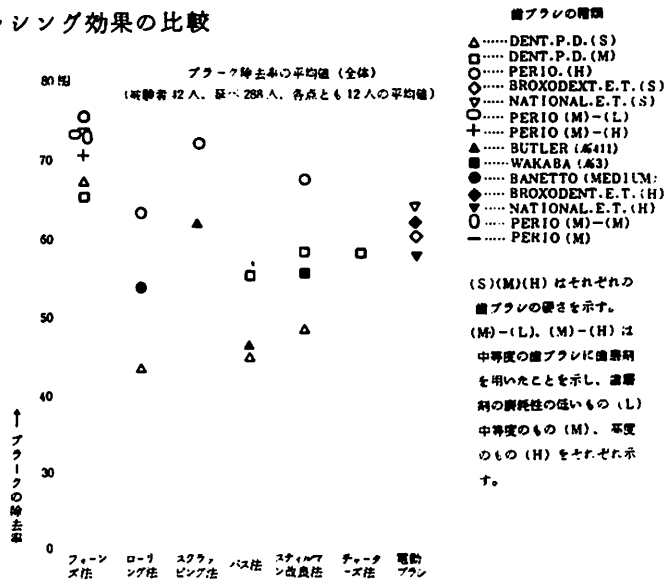
歯の表面のプラーク（歯垢）のとれかた

〔プラーク検出テスト〕

プラーク付着状態の診査は、う歯、歯周疾患の予防及び治療にとってきわめて重要であり、患者の教育、動機づけにも非常に有効である。

プラークの検出テストはプラーク染色剤（液）を用いる。その評価法としてO'Learyのプラークコントロールレコード(Plaque Control Record)が最も有効であり使い易い。これは歯面を4等分し、歯頸部歯面の染色の有無で判定する。

図4 ブラッシング効果の比較

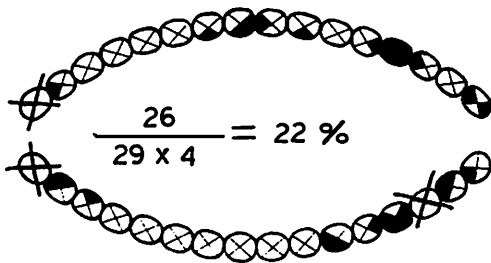


どんな方法でも硬い歯ブラシのほうが効果は高い、スクラッピング法やフォーンズ法は行ないやすく、時間が少なくてすみ、清掃効果が高い。

$$\text{評価}(\%) = \frac{\text{染色歯面の合計}}{\text{被検歯数} \times 4} \times 100$$

繰り返し診査して10%まで下るのを目標とする。図3

図3



〔歯肉マッサージは効果がない〕

歯周疾患の予防や治療に効果があるかのようにいわれているが、ブラークを取るの方が最も大切である。

〔最も簡単で効果があるのはスクラッピング法である〕

1週間歯を磨かせないで、288人に歯磨テ

ストをしてみた。図4の如く各種のハブラシと色々な磨き方を組み合わせてテストした結果、ローリング法を数えても日数がたつと動かし方がむづかしく忘れてしまう。これは非生理的な方法だからである。その点スクラッピング法は疲れにくく生理的な動作であり、ブラークの除去率が最も高かった。ハブラシはペリオ(サンスター)が効率がよかった。

〔スクラッピング法の実際〕

小さな往復運動のゴシゴシみがきである。唇頬側では歯ブラシの毛先を歯面に直角にあて、1カ所に約30回近遠心方向に数ミリ往復振動させ刷掃する。舌口蓋側はバス法のように毛先を歯軸に45度の角度であて往復運動する。ただし毛先はバス法と異なり、歯肉溝内には入れず歯肉縁すれすれにする。この方法はブラークの除去効果がもっとも高く、また歯肉の退縮を起こしにくい。順序は右下側顎

大臼歯頬側面より始め左側へ、左側舌側大臼歯から右側へ、最後に最後臼歯遠心側を磨いて、下顎を終り、同様に上顎を磨く。遠心部はペリオ SKD が効果がある。(図5)

図5



歯間部はフロスやインターデンタルブラシ等を用いて夜1回だけブラークを除去する。実験の結果3回フロスを使えば大体とれる。

〔歯磨き剤は少なめに使うがよい〕

歯がすりへるのはハブラシのせいではなく、歯磨き剤のせいである。

歯磨き剤を使わずにハブラシだけで、こすってみても歯はすりへるものではない。歯のエナメル質はダイヤモンド、サファイヤの次に硬いものである。

歯磨き剤による歯の磨耗テストを、荷重600g、3000回2時間、各種の歯磨き剤でした結果、歯磨き剤の種類によって歯の磨耗度が異なることが分かったので、使用に当っては注意を要する。

但し歯磨き剤を用いないと、歯の表面はタンニンなどによって着色される。

歯と歯ぐきの健康を維持するためには食物の形状、硬さが重要である。歯ぐたえのあるものを食べることが重要である。

木下先生は腎臓透析を受けながら瘦軀を鞭

打ちながら日夜、学会のためのみならず、新しい歯周疾患治療指針に基いた治療法を保健制度に取り入れさせるべく日歯、厚生省との会談を重ね斯界の先頭に立って奮闘なされておられましたが、熊本講演を終えられ帰京された翌日、透析中に急逝されました。何というショッキングな事でしょうか。我が歯科界にとって、かけがえのない偉人を失った悲しみは表わすすべを知りません。

衷心より先生の御冥福をお祈りします。合掌。

2. 学校歯科検診表の統一化について(案)

従来、学校歯科検診結果を持参して、診療所で受診していますが、検診表に記載された結果と診療所での精密診査結果と異った場合、トラブルのもとになることが少くありません。

そこで学校側が発行する検診表をもう少し簡略にしたいと思いまして、以下の如き案を作成致しました。これはあくまでも試案であって、最終のものではありませんので、御検討いただきたいと思います。

尚、その他の欄にもう少しくわしく歯周疾患、歯列不正などを記載すべきだと、出席の先生から御指摘をいただきました。確かに学校保健法施行規則(抄)の第一章健康診断、第一節 就学時の健康診断、第一条十に、歯及び口腔の疾病及び異常の有無は、う歯、歯周疾患、不正咬合その他の疾病及び異常について検査する。

とありますが、不正咬合の治療については経済的負担の問題もあり特記しませんでした、その他御意見をお聞かせ下さい。



歯科校診表結果のお知らせ（案）

保 護 老 殿

学校 年 組氏名

学校での歯科校診の結果、お子様には次のような結果
でしたのでお知らせします。歯科医の治療及び指導を受
けられた結果をなるべく早く学校に提出して下さい。

1. 永久歯のう歯があります。
2. 乳歯のう歯があります。
3. その他があります。

歯科治療報告書

学校長 殿

年 組氏名

- 1) 治療がすみました。
 1. 永久歯のう歯
 2. 乳歯のう歯
 3. 乳歯の抜歯
 4. その他
- 2) 経過をみる

昭和 年 月 日

歯科医師名 _____ 印

— 委 員 会 紹 介 —

学 術 委 員 会



担当理事
伊東 隆利

常日頃より、いろいろの講演会や行事に多数の参加をたまわり、会員諸先生方に厚く感謝いたしております。

私共の学術委員会の仕事は、氾濫する情報の中から、会員諸先生の必要とする技術なり知識を、まず解り易く、かつ早く、お手元に

届ける役目だと考えています。従がいて、講演のテーマ、講師の選択にはかなり神経を使い、かたよらない内容のものと思っています。また昨今では、スタディグループの活動や、いろいろの雑誌、各社のPR誌、ビデオ等による情報の伝達も活発ですので、そうした手段では成し得ない方面の話や内容を組み込むことも大切と考えています。「隣接医学シリーズ」もそうした考えから出発して企画したのですが好評のうちに4回まで終わりました。今後も続けていきたいテーマです。

来年度の企画としましては、「診断学シリーズ」、「会員による研究発表会」を委員会

で検討している所です。

今からの歯科医療を考える上で、会員諸先生の「生涯研修」と云うことは欠かせない問題だと思います。私共の活動が、その一助にでもなれば幸いです。

どうぞ、いろいろのご意見、アドバイスを
お出しいただけるようお願い申し上げます。



堀川 秀一

本委員会に属して早くも四期目になりました。当初とは時世も変り、最近は特に若い先生方の参加が増加し、熱気に満ちた講演会が開催されるようになって参りました。委員会に於ても若い先生方の頑張りのお陰で私の出るまくも少ないのですけど、今後もお役に立てるよう微力を尽したいと考えております。



岩村 泰行

人は学び、人は考える、人は創造する
人は一人で生きられぬ、人々は社会を
構成する。人々は平和を愛し、より良き
平和のために夢をもつ、無限に拓がる愛、
病める人を救い、より健全な体を保ち

より健全な社会を構成する。人々は人々
のために研究し、臨床は人々のためにつ
とめ、臨学一体ならんと希う、その間口
は広く、その奥行きは深く、理想と現実
の狭間にもだえ苦しみ、人々の幸福のた
めに、

ここ10数年急速な歯科医療の発展をみ、
今回のF・D・Iを契機に更に発展するこ
とが予測されます。私共はそれぞれの「レベ
ルアップ」に努めると共に身を引締めて行
きたいと存じます。諸先生の御健闘を御祈
り申し上げますと共に御指導、御鞭撻の
程御願ひ申し上げます次第でございます。



緒方 史朗

学術委員になり早いもので、二年余りを、
迎え様としている。その間、各分野にお
けるトップクラスの、諸先生の警咳に接し
学術的にも又、人間的にも得る所は大い
に思われます。スライドや講演や実習等
で学んだものは、本の上で素通りしたも
のよりは身につく様で、将来きっと臨床
で役に立つ日が来ると思われる。今後
共多くの未知の方々をお迎えして、お
話を聞けるのは、大いに楽しい事だと思
われる。又、講演会の時には、多くの
会員の先生方のお集まりを、希望して
おります。



斉藤 朗

学術委員に任命されて2年間、この仕事を通じて今まで面識のなかった先生とも知り合いになれて大変良い経験をしてきました。最初は講演会の準備など右往左往して居りましたが、慣れるにしたがって講演会の構成の楽しさも少し分かるようになりこの委員になったことを感謝しております。

今まで大きな失敗もなくやってこれたのも、伊東先生はじめ学術委員の先生方の御指導によるものだと思っています。これからあと1年の任期ですが、会の先生方にもっと喜ばれる講演会を企画していきたいと思います。



成松 賢二

伊藤先生のお勧めにより、私が学術委員の役をお受け致しまして1年余りたちましたが、委員とは名ばかりで皆様に御迷惑をおかけすることが多かった様に思います。

若輩者故に、御期待に添える事なく、委員会など回を重ねる事に諸先輩方の御指導により勉強不足の私もなんとか少しづつでもお力

になれる様にとここまでやってこれました。

これからも、色々な機会をとらえ、教えを乞いながら勉強していき、諸先輩方の足を引っばることのない様に頑張っていきたいと思っております。



藤波 剛

最近の諸情勢から、新しい学術知識が求められるようになったせいか、講演会への参加が非常に多いようで学術委員としてやりがいがあります。

先生方が求められている学術知識を講演会で実施できるようにつとめます。

先生方、どうか御健康だけには気をつけて下さい。



大嶋 健一

委員になってあっという間に1年半が過ぎました。もとより趣味が勉強と仕事と言う私には、大変いごちが良く、明るい毎日です。学術講演会においては、いす並べ会場作りなど主に肉体労働部門で活躍しています。

第5回日本口腔衛生学会

口腔衛生委員

分山和男・弥永康博

去る9月25日長崎大学歯学部附属病院に於て、第5回日本口腔衛生学会九州地方会総会が開催された。

口腔衛生委員は田島理事はじめ全員が当日朝8時半からの総会に出席できるように前日午後2時に熊本県歯科医師会館に集合し、田島・岡本両先生の車に分乗し長崎へ出発した。

当日は口腔衛生学という地味な性格の学会にも拘らず九州各県より朝早くから多数の参加者があり関心の高さが伺えた。



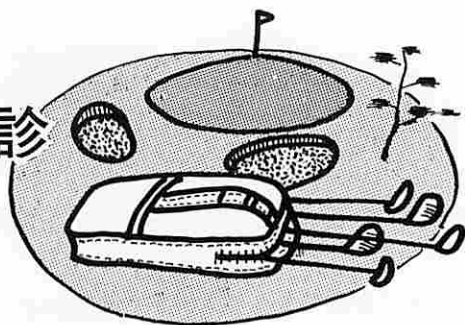
総会是一般講演21題・特別講演2題の発表であり、長崎大学歯学部の高木興教授の開会挨拶に始まり、○Streptococcus mutans 齲蝕原性因子に関する研究。○同菌の産生する非水溶性グルカンの血清型間類似性に関する研究。○ハムスター実験歯周炎における骨吸収の実体顕微鏡描画法による評価、○養護学校児童生徒の歯垢培養液から得られた一知見、



○班状菌（歯牙フッ素症菌）の経験例、○地域歯科保健におけるフッ化物の応用、○長崎県の歯科保健医療の現況等の発表や盛んな質疑応答が行なわれた後に、長崎大学歯学部口腔外科学第1講座の佐々木元賢教授による

「顔面・その左と右」という特別講演があり、人の顔は一見左右対称であると考えられているが教授の長年にわたる唇・顎・口蓋裂の手術や研究から、唇裂は左側に多く発症することに着目され、古今の名画においては人の顔は左右どのように描かれているかについて言及され、さらに歯学と芸術とのふれあい、そのめざすものにつき講演され非常に好評のうちに終了した。

本日休診



スキューバ・ダイビング

片山 隆 昭

いつも優しく柔らかく包んでくれる海、海の中は小宇宙、海の底から人魚の歌が聞こえる。海に対する形容とあこがれは尽きない。

私達が住んでいる陸は全地球上の4分の1、残りの4分の3は海である。月世界に人は到達したが、未だ5,000 m以上の深海の底には人は到達していない。人類にとって未だ神秘のベールに包まれた海底には、大いなる資源が眠っている。1960年代から欧米では陸資源が枯渇しはじめ、海底油田開発の技術が大いに進んだ。未知の世界を冒険するため、1942年フランスのJ・Yクストーは小型の自給潜水器を発表した。以来全世界でスキューバ・ダイビングが普及し、日本に導入されてから

30年、一般に普及してから20年になる。

マリンスポーツ華やかな今日この頃である。私は幼少の頃よりの海に対するあこがれと夢を実現すべく、46才のハンディをものともせず40の手習いを始めた。



ひとたび海に潜ると、そこには想像を遙かに超えた、新鮮な驚きに満ちた魅惑的な世界が広がっている。詩人でありダイバーでもある滝耕作氏の「眼の世界に自分なりに開眼し、以来日本各地のさまざまな海、あるいはインド洋、アラフラ海、チモール海、サンゴ海などの南洋の海に潜ってきた。そこで愉快的な海好きの人たちといつも親しく交わることがで



き、本当に楽しい思いをしてきた。ダイバーは誰れでも本質的には感動しやすい詩人だ…
みなわ水泡より人生れしという東西のはるけき神話
ひとあにわれもつらなる」に思いをはせ、いつのまにか我身をおきかえているのである。

ダイビングには1. スキン・ダイビング（水中メガネ、シュノーケルとフインの3点セットを使用）2. スキューバ・ダイビング（上記3点に、ウェットスーツ、ブーツ、ウェイト、エアータンク、レギュレーター、エアータンク、B.C.、ナイフ、コンパス、水深計、残圧計、ダイバーズウォッチなどを使う）の2種類がある。前者は、いつでも何処でも気軽に素潜りができるが、長時間は潜れない、後者は人間が魚になれる装備を使って何十分も何十メートルも潜れる。（但しスポーツとしては40m以上は潜らない）

海の中は地上と異なり気圧が高く深度に伴い水圧が変化するので危険を伴う、潜るにあたっては潜水技術（物理化学、生物学、医学その他の科学とも関連）のマスターは不可欠であり、その深奥を極めるには相当の勉強と

トレーニングを必要とする。スポーツダイバーにはランクがあり、技倆、精神力に優れた者で潜水士国家試験に合格した者に、公認のインストラクターの称号が与えられる。上記インストラクターがいて、親切に指導してくれるクラブとしてブルー・マリン Tel (0963) 67-8449 を推薦したい。

青い空に紺碧の海、色とりどりのサンゴの周囲に群れ集うカラフルな魚、無重力状態で宇宙遊泳ならぬ海中散歩を世界の海でしてみたい。



昭和58年度 歯磨き巡回指導

学校歯科委員会

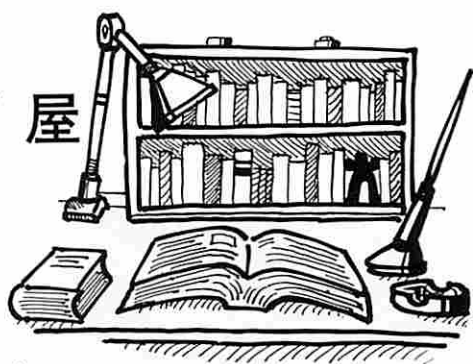
本歯科医師会では口腔衛生思想の普及活動の一環として熊本市市内幼稚園・小学校を対称に歯磨き巡回指導を福岡ライオンの協力を得て毎年行っています。本年も福岡ライオンの歯科衛生士佐伯真紀子、渡辺清香さん両名の来熊を得て下記の要領で10月19日から3日間21日まで幼稚園2園、小学校7校、計9ヶ所について巡回指導を行った。特に本年度は低学年(1年から3年生まで)について指導を行った。単に歯磨きという事ではあるがまだまだ児童生徒達にとって給食後の歯磨き

も徹底しておらず、学校によって特に養護の先生の関心の程度にもよって差が有る様に思われます。しかし私共例年児童生徒の態度を観察していると、少しずつではあるが効果が現われ地につきつつある事がうかがわれ、喜んでいます。

このことは熊本市、及び学校と学校歯科医の先生方の御協力により達成出来つつある事と思い本会を感謝している次第です。来年も行われる事になっていますのでこの場を借りてよろしくお願いを申し上げます。

期 日	時 間	学校(園)名
10. 19	8:50 — 9:50	出 水 小
19	10:30 — 11:30	楠 幼
19	2:00 — 3:00	古 町 小
10. 20	9:00 — 10:00	白 坪 小
20	10:30 — 11:30	向 山 幼
20	2:00 — 3:00	春 日 小
10. 21	8:45 — 9:45	花 園 小
21	10:30 — 11:30	城 西 小
21	1:55 — 2:40	五 福 小

勉強部屋



世界一の咬合器を使おう

浜 坂 浩

どんなにお金を出しても患者自身の顎運動にかなう咬合器はないはずです。

支台歯形成を終了したら直ちにテクニコールで印象をし塩をまぜた石膏を流し、歯肉圧排を行ない。

前回お話ししたインプレッションペーストによる咬合に石膏流しを行ない、印象を完了した頃に写真①の様なハードワックスで作ったFGPトレーが技工室から出来てくる。その咬

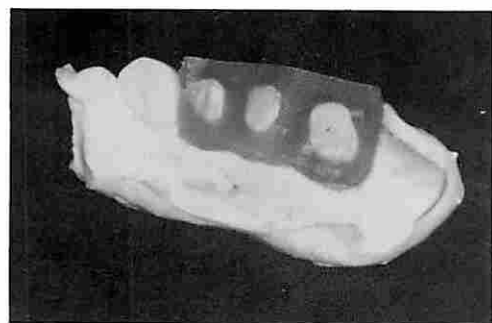


写真1

合面にジェレンコのハイファイワックスを軟化盛上げて口腔内に納め左右前後自由に患者に運動してもらうと、写真②の様な下顎臼歯の運動軌跡が印記される。これは絶対に下顎の



写真2

運動をさまたげる事はなく、又このハイファイワックスの面は全て下顎臼歯と接する事が出来る。

すなわちこのワックスを上顎臼歯の形に整えると完全に顎運動にマッチした歯冠が出来る事になる。しかしそれは技術的に不可能なので、これを石膏でコアをとる。写真③。

これを口腔から取り出す。写真④は、上がそのコアで、下は対合歯の非運動時のコアである。これを3個で一対になったパーチキレーターに装着する。写真⑤、右から支台歯模型。

次に機能コア。そして左は解剖学的静止コア。写真⑥は、機能コアである。

支台歯にインレーワックスを盛り上げ機能コアを圧接すると、口腔内のハイフアイワックスの軌跡と同じものが出来る。そうすれ

ばそれを解剖学的静止コア（対合歯）に合わせて形を整えると完璧な歯冠が出来上がる事になる。写真⑦



写真3



写真4

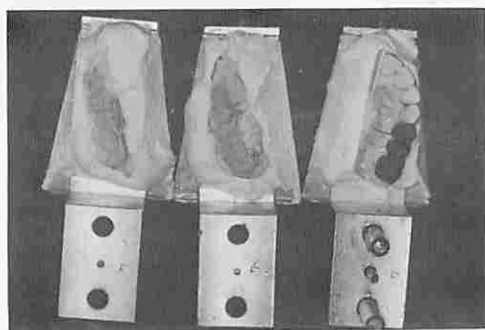


写真5

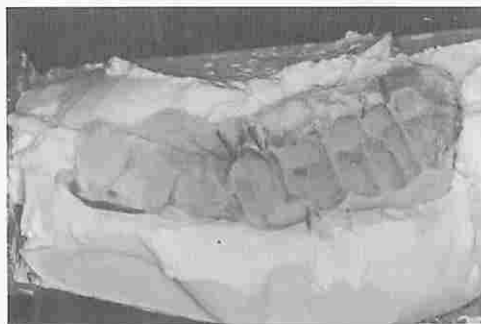


写真6

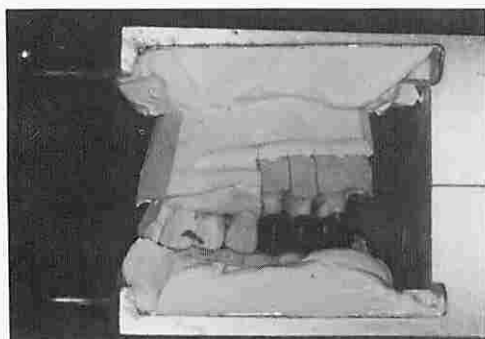


写真7

新樹会大学対抗ソフトボール大会

去る10月16日、秋晴れの秋津中央公園に於いて、新樹会大学対抗ソフトボール大会が行なわれた。9時30分よりの開会式は千場議長挨拶、新樹会OB代表椿先生の激励の言葉に続き城西歯大の河野先生の選手宣誓、伊藤先生のルール説明、組合せ抽選があり試合に移った。

優勝戦は福歯大対愛知歯大となり長打力、守備力でわずかに勝る福歯大が8対4のスコアで優勝を果たした。

全試合共珍プレー、好プレーの続出で笑いあいヤジの飛ばし合いありで日頃の診療のス

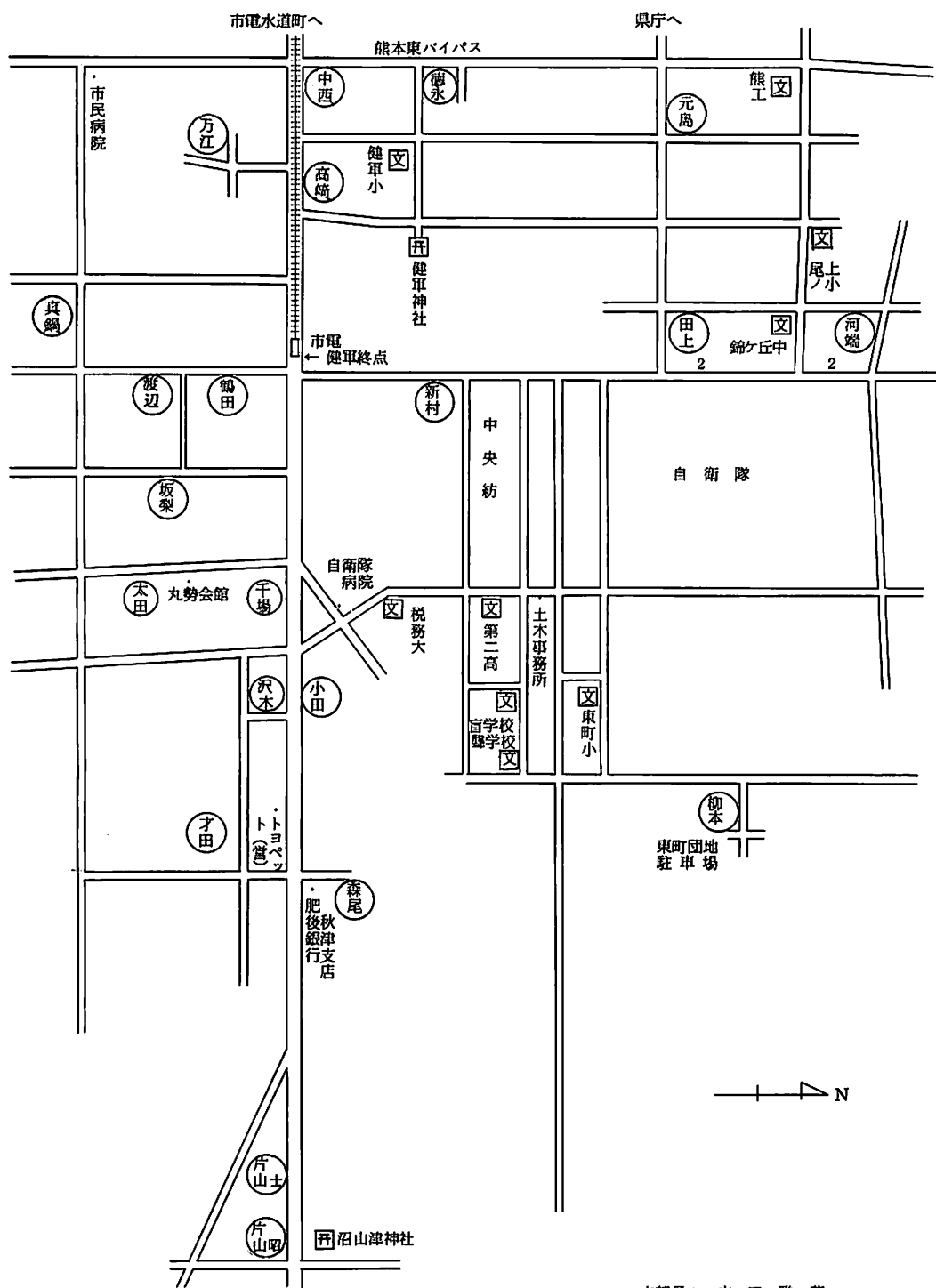
トレスを解するかのように終日笑いに包まれ楽しい時間を過ごした。

最後に全員集合し表彰式、閉会式を行なった。優勝チームより最優秀選手、各チームより優秀選手の表彰及び参加賞を全員に配ばられ、副議長田中先生の閉会の辞で解散となった。

尚特別にチーム編成をしてゲームに参加していただいた新樹会OBの諸先生方並びにゲーム進行に協力された内田サンエス歯材店、中九州みどり薬品の方々に感謝の意を表します。



会員配置図 東部 4



支部長：才田雅英
 診療所：21件
 会員数：23名

御案内

S 59年度 熊本市歯科医師会 新春懇親パーティーのご案内

拝啓 先生方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、恒例の昭和59年度熊本市歯科医師会新春懇親パーティーを下記の要領で開催致します。

御多忙中とは存じますが、万障お繰り合せの上、御同伴者共々多数のご出席をお願い申し上げます。

敬 具

記

日 時	昭和59年1月28日(土)午後6時30分
場 所	ホテルキャッスル

会 務 報 告

8/29~11/24

月	日	行	事
8	29	社保委員会	
	"	広報委員会	
9	9	広報委員会	
	16	学校歯科委員会	
	20	監 査	
	"	理 事 会	
	21	厚生委員会	
	24	口腔衛生委員会	
	26	医療管理委員会	
	27	代議員会	(初房)
	29	北部1支部会	
10	②	厚生レクリエーション	(スコーレ菊池高原)
	7	学術委員会	
	11	医療管理(小)委員会	
	13	学校歯科	合同委員会
		口腔衛生	
	15	学校歯科研修会	
	19	厚生委員会	
19	~21	歯みがき巡回指導	
	20	理 事 会	
	24	医療管理委員会	
	25	医療管理講演会	
	27	広報委員会	
		学術委員会	
	28	学術講演会	
11	10	医療管理委員会	
	11	口腔衛生委員会	
	14	緒方義弘先生御逝去	通 夜 15日PM 7:00 (八代 緒方内科) 告別式 19日PM 2:00 (豊住葬祭)
	17	広報委員会	
	18	広報(小)委員会	
	24	理 事 会	

編集後記

昭和58年も終りに近づきました。この一年をふりかえり会員の先生方いかがでしたか。

今年は11月にFDI総会という日本歯科医師会では、最大事業が行われました。各分野の歯科医療技術は日進月歩ですが、何か我々歯科医師の生活を守るためには歯車の咬み合わせ点が多い様に思われます。

来年こそは歯科界にとりまして、良き年であります様に切望したいと思います。

広報委員会

熊本市歯科医師会会誌

第 46 号

発行日 昭和58年12月20日発行

発行所 熊本市歯科医師会

熊本市坪井2丁目3番6号

TEL(43)6669

発行者 川崎正士

印刷所 コロニー印刷

熊本市二本木3丁目12-37

TEL(53)1291